

追加資料

生検および TURBT 検体のチェックリストおよび記載例

腎盂・尿管手術検体のチェックリストおよび記載例

膀胱手術検体のチェックリストおよび記載例

◆検体の属性

【検体の種類】

- 腎盂生検
 尿管生検
 膀胱生検
 TURBT
 その他 _____
 特定困難

【側性】（腎盂および尿管）

- 右
 左
 特定困難

◆組織学的所見

【組織型】

- 尿路上皮異形成
 尿路上皮内癌
 非浸潤性乳頭状尿路上皮癌
 浸潤性尿路上皮癌
 尿路上皮癌，特殊型
 （特殊型名を記載： _____）
 扁平上皮癌
 扁平上皮癌，特殊型
 （特殊型名を記載： _____）
 腺癌
 腺癌，亜型
 （亜型名を記載： _____）
 小細胞癌
 神経内分泌腫瘍，その他
 （組織型を記載： _____）
 未分化癌
 その他
 （組織型を記載： _____）

【組織学的異型度】

- 低異型度
 高異型度
 判定困難

前回の規約分類に基づく

- G0
 G1
 G2
 G3
 GX

異型度の優勢度（不等号使用）：

- その他の分類：
 （分類法および分類を記載： _____）
 その他の分類（扁平上皮癌および腺癌）：
 （分類法および分類を記載： _____）
 判定対象外

【組織浸潤様式】（可能であれば）

INF _____

【脈管侵襲評価】

（特殊染色を施行した場合の染色法）：

ly _____（ _____ ） v _____（ _____ ）
 または
 LVI _____（ _____ ）

◆病期判定

【腫瘍深達度判定の妥当性】

- 固有筋層成分が採取されている
 固有筋層成分が採取されていない
 固有筋層成分が不明

【腫瘍深達度（pT）】（最大 pT2 まで）

- 判定可能な場合（pT 分類を記載）_____
 判定困難な場合

◆生検もしくは治療歴

なし / あり（具体名： _____）
 生検もしくは治療に付随する病理学的所見

◆特記項目

◆記載例

【膀胱生検症例】

- ・ Urothelial carcinoma in situ (G3), pTis
- ・ Papillary urothelial carcinoma, low grade (G1), pTa 以上

【経尿道的膀胱切除術症例】

腫瘍最深部の評価が可能な症例：

- ・ Papillary urothelial carcinoma, high grade (G2 > G3), pTa (固有筋層成分なし)
- ・ Urothelial carcinoma in situ (G3), after BCG therapeutic status, pTis (固有筋層成分なし)
- ・ Invasive urothelial carcinoma (high grade, G2), pT1, LV10 (固有筋層成分あり)

腫瘍最深部の評価が困難な症例：

- ・ Invasive urothelial carcinoma with squamous differentiation (high grade, G2 > G3), LV11, pT1 (at least) (固有筋層成分なし)
- ・ Invasive urothelial carcinoma, micropapillary variant (high grade, G2), ly1, v1, pT2 (at least) (固有筋層成分あり)

固有筋層への腫瘍細胞浸潤評価が困難な症例：

- ・ Invasive urothelial carcinoma (high grade, G2 > G3), LV10, pT1 (at least) (固有筋層成分あり, 固有筋層への腫瘍細胞浸潤評価困難)

◆検体の属性

【術式】

- 腎尿管全摘除術
 腎摘除術
 腎盂部分切除術
 尿管部分切除術
 腫瘍切除術
 その他 _____
 特定困難

【側性】

- 右
 左
 特定困難

【腫瘍径】

最大腫瘍径：_____ cm
 他の腫瘍の腫瘍径：_____ cm
 特定困難

【腫瘍形態】

- 乳頭型：有茎性 / 広基性
 結節型：有茎性 / 広基性
 平坦型
 潰瘍型
 混合型
 分類不能 _____

◆組織学的所見

【組織型】

- 尿路上皮異形成
 尿路上皮内癌
 非浸潤性乳頭状尿路上皮癌
 浸潤性尿路上皮癌
 尿路上皮癌，特殊型
 (特殊型名を記載： _____)
 扁平上皮癌
 扁平上皮癌，特殊型
 (特殊型名を記載： _____)
 腺癌
 腺癌，亜型
 (亜型名を記載： _____)
 小細胞癌
 神経内分泌腫瘍，その他
 (組織型を記載： _____)
 未分化癌
 その他
 (組織型を記載： _____)

【組織学的異型度】

- 低異型度
 高異型度
 判定困難

前回の規約分類に基づく

- G0
 G1
 G2
 G3
 GX

異型度の優勢度 (不等号使用)：

- その他の分類 (尿路上皮癌)：
 (分類法および分類を記載： _____)
 その他の分類 (扁平上皮癌および腺癌)：
 (分類法および分類を記載： _____)
 判定対象外

【組織浸潤様式】

INF _____

【切除断端評価】

u-rt _____
 u-lt _____

【剥離面評価】

RM _____
 具体的な陽性部位： _____

【脈管侵襲評価】

(特殊染色を施行した場合の染色法)：

ly _____ (_____) v _____ (_____)
 または
 LVI _____ (_____)

◆病期判定

【腫瘍深達度 (pT)】

- 判定可能な場合 (pT 分類を記載) _____
 判定困難な場合

【所属リンパ節 (pN)】

 検討した所属リンパ節群および各群におけるリンパ節数 (検討されたすべてのリンパ節数および転移リンパ節数)：
 転移リンパ節の最大径：_____ cm

【遠隔転移 (pM)】

 具体的な転移部位 (存在すれば)

◆生検もしくは治療歴

なし / あり (具体名： _____)
 生検もしくは治療に付随する病理学的所見

◆特記項目

◆記載例

【腎盂癌手術症例】

- Papillary urothelial carcinoma (low grade, G1), pTa, INFa, LV10, u-lt0, RM0, pNx, cM0, Stage 0a
- Invasive urothelial carcinoma, (high grade, G2 > G3) with collecting ductal spread, pT2, INFb, ly0 (D2-40), v0 (CD31), u-rt0, RM0, pN0 [右腎門部リンパ節 (0/5)], Stage II
- Invasive urothelial carcinoma (high grade, G2 < G3), pT4, INFc, LV11, u-ltis, RM1 (左 Gerota 被膜), pN3[左腎門部リンパ節 (3/7, 最大径 6.5cm), 腹部傍大動脈リンパ節 (0/5)], pM1 (左副腎), Stage IV

【尿管癌手術症例】

- Papillary urothelial carcinoma (high grade, G2 < G3) with carcinoma in situ component, pTa, INFa, ly0, v0, u-rt0, RM0, pNx, Stage 0a
- Urothelial carcinoma in situ (G3), pTis, INFa, ly0, v0, u-rt0, RM0, pNx, Stage 0is
- Invasive urothelial carcinoma (high grade, G3), pT3, INFb, ly0, v1, u-rt1, RM0, pN1 [腹部傍大動脈リンパ節 (1/8, 最大径 1.5cm)], Stage IV

◆検体の属性

【術式】

- 膀胱部分切除術
膀胱単純摘除術
膀胱全摘除術
その他 _____
特定困難

【腫瘍部位】（該当部をすべて）

- 三角部
右側壁
左側壁
前壁
後壁
頂部
その他 _____
特定困難

【腫瘍径】

最大腫瘍径：_____ cm
 他の腫瘍の腫瘍径：_____ cm
 特定困難

【腫瘍形態】（該当部をすべて）

- 乳頭型： 有茎性 / 広基性
結節型： 有茎性 / 広基性
平坦型
潰瘍型
混合型
分類不能 _____

◆組織学的所見

【組織型】

- 尿路上皮異形成
尿路上皮内癌
非浸潤性乳頭状尿路上皮癌
浸潤性尿路上皮癌
尿路上皮癌，特殊型
 （特殊型名を記載： _____）
扁平上皮癌
扁平上皮癌，特殊型
 （特殊型名を記載： _____）
腺癌
腺癌，亜型
 （亜型名を記載： _____）
小細胞癌
神経内分泌腫瘍，その他
 （組織型を記載： _____）
未分化癌
その他（組織型を記載： _____）

【組織学的異型度】

- 低異型度
高異型度

判定困難

前回の規約分類に基づく

- G0
G1
G2
G3
GX

異型度の優勢度（不等号使用）：

- その他の分類（尿路上皮癌）：
 （分類法および分類を記載： _____）
その他の分類（扁平上皮癌・腺癌・尿膜管癌）：
 （分類法および分類を記載： _____）
判定対象外

【組織浸潤様式】

INF _____

【切除断端評価】

u-rt _____
 u-lt _____
 ur _____

【剥離面評価】

RM _____

具体的な陽性部位： _____

【脈管侵襲評価】

（特殊染色を施行した場合の染色法）：

ly _____（ _____ ） v _____（ _____ ）
 または
 LVI _____（ _____ ）

◆病期判定

【腫瘍深達度（pT）】

- 判定可能な場合（pT分類を記載） _____
判定困難な場合

【所属リンパ節（pN）】

 検討した所属リンパ節群および各群におけるリンパ節数（検討されたすべてのリンパ節数および転移リンパ節数） _____

【遠隔転移（pM）】

 具体的な転移部位（存在すれば）

◆生検もしくは治療歴

なし / あり（具体名： _____）
 生検もしくは治療に付随する病理学的所見

その他： _____

◆特記項目

◆記載例

【膀胱癌手術症例】

- Papillary urothelial carcinoma (high grade, G2) with carcinoma in situ component, after TUR-BT, ypTa, INFa, LV10, u-rt0, u-lt0, ur0, RM0, pN0 [左外腸骨 (0/5), 右外腸骨 (0/3), 左閉鎖リンパ節 (0/4), 左外閉鎖リンパ節 (0/6)]
- No residual urothelial carcinoma cells are seen in the specimen after chemoradiation therapeutic status, ypT0, ly0, v0, u-rt0, u-lt0, ur0, RM0, pN0 [左外腸骨リンパ節 (0/2), 右外腸骨リンパ節 (0/7), 左内腸骨リンパ節 (0/3), 右内腸骨リンパ節 (0/6), 左閉鎖リンパ節 (0/4), 左外閉鎖リンパ節 (0/6)]
- Invasive urothelial carcinoma, sarcomatoid variant (with rhabdomyosarcoma component) (high grade, G2 < G3), pT4 (直腸), INFc, LV11, u-rt1, u-ltis, ur0, RM1 (直腸), pN3 [左外腸骨リンパ節 (3/5), 右外腸骨リンパ節 (0/3), 左内腸骨リンパ節 (1/5), 右内腸骨リンパ節 (0/4), 左閉鎖リンパ節 (1/4), 左外閉鎖リンパ節 (2/6)], pM1 (左腸骨), Stage IV
- Invasive urothelial carcinoma, with prostatic ductal spread without stromal invasion, (high grade, G2 > G3), pT2, INFb, ly1 (D2-40), v0 (CD31), u-rt0, u-lt0, ur0, RM0, pN0 [左外腸骨リンパ節 (0/5), 右外腸骨リンパ節 (0/3), 左内腸骨リンパ節 (0/3), 右内腸骨リンパ節 (0/6), 左閉鎖リンパ節 (0/4), 左外閉鎖リンパ節 (0/6)], Stage II